

令和6年度 県立神戸鈴蘭台高等学校 学校評価（目標と評価方法）

1 学校経営のテーマ

【教育方針】

本校は、鈴蘭台高校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりをめざしている。

国際コミュニケーションコースを有する本校は、グローバル化の進む社会において、国際的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

また、令和7年度の文理探究科の開設に向け、「総合的な探究の時間」を通じて、大学や企業、自治体と連携し、課題発見・課題解決を実践しながら、探究活動の充実を図っている。

上記の教育方針を実現するために、次の4点の教育目標を定める。

- (1) “夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し、自らの考えを他者との確に共有できる人材を育成する。
- (2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、持続可能な社会の実現に貢献しようとする人材を育成する。
- (3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に必要とされる国際的な視野とコミュニケーション能力を持ち、国際社会で活躍することができる人材を育成する。
- (4) 自律的に課題を発見し、その課題解決に向けて主体的に探究することができる人材を育成する。

2 本年度の重点目標

第4期「ひょうご教育創造プラン」及び4点の教育目標を踏まえ、次の5項目を重点目標とする。

- (1) 『絆』を深め、“夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し、探究的な学びを充実させることで、自らの考えを他者との確に共有できる人材の育成
 - ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。
 - イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。
 - ウ 将来の進路目標を実現し、他者の意見や考えを尊重し、他者と協働して社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識・技能に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力の充実を図る。
- (2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、社会の実現に貢献しようとする人材の育成
 - ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。
 - イ 校内や地域の美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。
 - ウ 生命の尊さや、他者を思いやる心を育て、人権意識を高め、防災・安全教育を充実させる。
- (3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に向けて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持つ国際社会で活躍する人材の育成
 - ア 伝統文化を尊重しつつ、国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員として責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。
 - イ 特に国際コミュニケーションコースにおいては、英語（韓国語、中国語）によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- (4) 地域社会と連携する中で、課題を発見し、その解決策を主体的に探究しながら、社会に貢献できる人材の育成
 - ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加など、開かれた学校づくりを積極的に進め、地域の課題を発見し、解決策を主体的に探究しながら魅力ある教育活動を展開する。
 - イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
- (5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実
 - ア 本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。
 - イ 高大連携、高大接続改革、新学習指導要領など、教育環境の変化に対応し、生徒たちの夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組みを推進する。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

- (1) 9割以上の生徒が「本校に入学して良かった」と考えており、これは教員と生徒の関係性が良いことも大きく影響しているものと考えられる。また、全生徒がipadを活用しており、教員のICTを活用した授業改善も進んだ。9割以上の生徒がICTを効果的に活用しており、7割の生徒が授業内容に興味関心がわき、集中して授業を受けることができている状況である。引き続き、タブレットによるグループワークでの活用の充実や、授業の理解度を深めるための効果的なICT活用の授業研究、新たな観点別評価に基づく指導と評価の一体化の効果的な授業改善を進めていく。教職員一同、来年度の文理探究科の新設に向けて、より一層の教育活動、特に探究活動の充実に取り組んでいく。
- (2) 「総合的な探究の時間」では、来年度の文理探究科の新設を見据え、1・2年生で高大連携を軸としたゼミ形式の大学教員による指導助言を取入れた探究活動に取り組んできた、探究活動を通して、その成果をまとめ、発表することで、将来の在り方生き方を考えさせ、進路実現のためのキャリア教育の充実にもつなげている。その結果として、昨年同様に7割以上の生徒が本校のキャリア教育プログラムや「総合的な探究の時間」などが進路を考える上で役立ったと考えており、全ての生徒のキャリアプランニング能力の育成を充実させるために、より一層の体系的・組織的な探究活動の充実や進路ガイダンスなどのキャリア教育の充実に取り組んでいく。
- (3) グローバル教育については、国際コミュニケーションコースを核として、引き続き、「英検対策講座」「韓国の高校生との直接交流会(本校への訪問)及びアメリカ・台湾・韓国の高校生とのオンライン授業による交流」「夏季休業中の英語集中講座」「神戸市外大訪問やJICA訪問」「総合的な学習の時間による模擬国連の体験(2年生)」など各種体験プログラムや行事を充実させている。普通科クラスの生徒を含めて半数以上の生徒がグローバルな人づくりのためのプログラムが充実していると考えており、コースの生徒はもとより普通科クラスを含めた全ての生徒が参加して体験できるプログラムを探究活動と関連させて充実していくことが課題である。

- (4) 今年度は来年度の文理探究科の新設に向けての広報活動の重点化に取り組み、オープン・ハイスクールの内容の充実、またHPのリニューアルや中学生・保護者向けの出前学校説明会の充実を図った。また、令和4年度より、2年生の「総合的な探究の時間」での「北区活性化プロジェクト」における北区地域協働課との連携、鈴蘭台駅でのフラワープロジェクト等の実施、また和太鼓部やダンス部、ギター部による各種地域行事の参加や編集部による鈴高新聞、鈴高miniプレスによる広報など、文化部を中心に多くの生徒が地域貢献活動に取り組み、校外にはHPで、校内では「神戸鈴蘭台 Go Global 通信」を掲示し、来校者に分かりやすく周知することできた。

(5) 「通級指導教室」実践校として4年目を迎えたが、学識経験者による教員研修や特別支援教育の視点で配慮が必要な生徒についての研修を実施することで、学校全体で共通理解を図った。引き続き、通級指導の拠点校として、専門機関や協力校と連携し、生徒理解に向けた特別支援教育の研修のさらなる充実を図っていく。

4 学校関係者評価総括

- ・文理探究科の新設に向けた取組については、特に活動を学校全体に拡げているので評価しているし、期待している。
 - ・生徒たちの様子については、学校での教育活動の成果もあって、地域の人を助け、美化活動等において地域貢献するなど、大変評価している。
 - ・部活動についても、運動部も文化部も近畿大会や全国大会に出場するなど活躍しており、評価している。
 - ・タブレットなど ICT を活用した授業が充実していることも高く評価できるので、引き続き、教員側についても ICT 活用のスキルを高めて欲しい。
 - ・今後、教育活動においてのデジタル化が進んでいくと思うが、対面での交流やコミュニケーションも同時に大切にしたい。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) ”夢”や希望を叶え、『在りたい未来』を実現するために必要な「確かな学力」を育成し、自らの考えを他者との確に共有できる能力を有する人材の育成	①生徒が学習活動にスムーズに取り組めるよう、校内環境の整備・充実を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	① 概ね環境整備が整っている。さらに整備を進めて、充実させる。
	②教員が授業研究に費やす時間や労力を確保できるよう、校務全般を見直す。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	② 校務や行事の見直し等を進めて、改善されつつある。さらに教員の時間確保のために、校務の見直しをはかる。
	③3～4人での教員グループによる相互授業参観の取組みを継続し、お互いに意見交換することで、授業研究を推進する。【教務部】	③授業研究の参加者数により評価する。（目標：100%）【教務部】	A	③ 2学期に授業参観に取り組み、それぞれの授業方法や、指導と評価の一体化に向けた取り組みについて協議した。今後も継続して授業改善に取り組んでいく。
	④協働学習や主体的・対話的で深い学びの実践において、ICTを効果的に活用する。【教務部】	④協働学習や主体的・対話的で深い学びの実践および授業におけるICT使用率により評価する。（目標：50%以上）【教務部】	A	④ 協働学習においてはペアワーク等で課題の共有や学びあいをすすめ、ICTの活用においてはプロジェクトを利用した授業のUD化や多くの授業でクラウドの積極的な活用が見られた。引き続き、授業改善に取り組んでいく。
	⑤基本的生活習慣の定着を図り、スマートフォンを適正に使用するなど情報モラルやメディア・リテラシーを意識させる。【生徒指導部】	⑤生活実態調査などで実態を把握しその変化を検証することで評価する。【生徒指導部】	A	⑤ 生活実態調査（いじめアンケート）では、8割以上の生徒が学校生活に満足していると回答。今後も、新入生ガイダンス、始・終業式等において情報モラルやメディア・リテラシーの意識向上を図る。
	⑥通級指導において、個に応じた教育支援を行い、苦手科目を少なくし、得意科目の伸張を図る。【特別支援教育】	⑥学習活動の成果(成績、活動内容)、希望進路の実現などから評価する。【特別支援教育】	A	⑥ 通級指導を通じて、徐々にコミュニケーション能力の向上が見られた。協力校（神戸特別支援学校）の担当者からの高い評価を得ている。今後も継続して取り組んでいく。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 自他の生命・尊厳及び自然環境を尊重する精神を持ち、社会の実現に貢献しようとする人材の育成	①防災学習を通して、防災意識を高め、自他の命を守る具体的行動を考えさせ、訓練などを実施する。【総務部】	①避難訓練など防災学習実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	① 防災学習のための時間を確保し、防災学習を充実させて、生徒の防災意識を高められるような取り組みを進める。
	②生徒の健全な心身の成長を意図した、保健関連の講演会・研修会などを実施する。【総務部】	②講演会、研修会実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	② 夏季休業前に部活動代表生徒を対象とした救急研修会を実施し、実技演習を行い、心肺蘇生法や熱中症対応などの知識・技術を習得していた。講演会については実施できなかった。
	③学年集会や全校集会における人権教育や「いじめ」に関する講話を通して、命を大切にし、自他を尊重する態度を育成する。【生徒指導部】	③「いじめ」に関するアンケート調査を年3回実施し、その内容を検証することにより評価する。【生徒指導部】	B	③ 3回の「いじめアンケート」を実施。いじめに該当する項目に回答した生徒については、担任・学年（主任・副主任）で精査し、管理職に報告した。
	④人権教育を通して人間性豊かな人材の育成を図る。【人権教育推進委員会】	④人権 HR（講演会）後の生徒感想文（作文）の内容により評価する。【人権教育推進委員会】	A	④ 人権HR（講演会）の感想文は、生徒の意識の変化を確かめる評価材料になるとともに、さらに担任が感想文を使って人権学習を深めていくことができるので、有効であった。
	⑤県庁、県警、看護など各種インターンシップの参加を促進し、キャリア形成に資する体験活動を通じた機会を充実させる。【進路指導部】	⑤インターンシップの参加状況や生徒感想文などにより評価する。【進路指導部】	A	⑤ 看護体験・医療系体験に関しては、「県庁インターンシップ」により、こども病院において2年生1名、「ふれあい看護体験」で県内の医療施設において、2年生10名、3年生8名が就業体験に参加した。神戸学院大学の「高校

				生のための薬学体験講座」へは、2年生2名が参加した。神戸市社会福祉協議会主催の福祉体験学習（ワークキャンプ）に1年生2人、2年生4人、3年生4人の合計11人が申し込んだが、2人については、施設の都合で直前にキャンセルとなり、実際に参加できたのは9人であった。訪問先は認定こども園、保育園、児童館、社会福祉法人施設であった。 こども病院で体験した生徒は、「看護師さんの多忙さを見学し、また仕事をテキパキこなしていく姿を見て、憧れを持ちました。」「患者さんが、不満や不安を感じることなく入院生活を過ごせるようにサポートする環境整備や対応がとても印象的でした。」という感想を持ち、「看護師や医者などチーム医療としての情報交換の大切さを理解できた。」「患者さんを一番に考えた治療方法を（で）、臨機応変に対応することの大切さを理解することができた」と成果を感じている。 ふれあい看護体験に参加した生徒の感想では、「想像している以上に大変な仕事」「やりがいがあふれた職業」「患者さんの容態に応じての対応が必要」「同じ医療職でも助産師と看護師で仕事内容や職場の雰囲気が全然違ったので、進路選択の判断材料の1つとして生かしていきたい」「患者さんやお母さん、スタッフ同士のコミュニケーションも大事」「薬剤師さんや看護助手さんなど色々な人とコミュニケーションを取る必要がある」「患者さんとより良いコミュニケーションをとるために（中略）医療のことが必要」「幼い子から介護の必要な方まで、様々な症状があり、その人その人に合わせた看護をし、またすぐに対応できるようにある程度の情報を頭に入れていることに気付きました」「ダブルチェックをしたり、（中略）細かいことが患者さんのためになったり、直接命に関わったりすることが分かり、責任のある仕事だと思う」「寝たきりの患者さんを持ち上げたり、ナースコールがなったら急いで病室に向かったりと、（体）力が必要」「デジタル化が進んでいる」「普通の看護師以外にも、認定看護師など色々な種類の看護師がいる」「より将来看護師になりたいという思いが強くなった」などと、多くの発見があり、看護師への思いを強めているのが窺える。 また、今後の学校生活の中で心掛けていきたいことや努力したいこととして、「できるだけたくさんの人とコミュニケーションを取る」「人見知りを言い訳に、自分から話しかけることとかを全然してこなかったから、今後は自分から話かけれるように努力していきたい」「どのような場面でも冷静に対処する」「優先順位をつける」「困っている人を助けられる人になりたい」「自分から行動する」「行動力を身につけていきたい」「周りをよく見て行動する」「自分にできることを積極的に探し行動する」「生物などの授業をしっかりと理解」「より目指したい気持ちが高くなったので、これからもっと勉強を頑張って4年制の大学に行きたい」「参加する前よりもやりたいことがはっきりしてきたので、自分がやりたいことを中心に大学を探し（中略）そのためにたくさん勉強していこうと思いました。」などと具体的な努力目標を持つことができるようになったと捉えている。全員が体験を終えて「大変満足」「満足」と回答し、今後の進路選択に生かせると捉えている。 薬学体験講座に参加した1人は、「さらに薬学について
--	--	--	--	--

	⑥卒業後の希望の進路に向けて、家庭での学習時間を確保し、学習時間の確立を図る。【進路指導部】	⑥学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	詳しく学びたいと思いが強まったし、難しそうという印象から、楽しいという印象に変化した」と述べ、将来「薬に関わるお仕事がしたい」ので、「化学、有機化学、英語の基礎を身につけること」が大切かつ必要だと考えている。もう1人も「患者さんのより近くで支えられる存在として活躍できる仕事」に就きたいと考え、「今後の勉強のモチベーションとして、受験に向けて勉強を頑張っていきたい」と思っている。 福祉体験学習に参加した生徒は、「私は年齢などを問わず人と関わるのが好きなのだと再認識しました。様々な人と円滑にコミュニケーションを取るためにも、外国語の勉強はしっかりしていきたいと思いました。」「障がい者だからといって何もできないと決めつけるのではなく、その人にとって得意なことをみつけてあげることが大切だと学びました。」「人に伝える力がとても大切だということ」に気付いた、「子どもは自分が思っていたよりも、自分で考えて行動して意思表示がきっちりできることに驚きました。」という感想を持ち、今後については「たくさんの人と交流する」「英語だけでなく、他の外国語の取得にも力を入れて取り組みたい」「友達との接し方や距離感を意識していきたい」「人には優しく、慈しみを持って接する」を意識していきたいこととして挙げている。 また、「新しい発見や体験を3日間で沢山できた」「表の仕事（表面的な仕事）以外も深く知ることができた」「保育士として子どもと関わったことで、とても楽しかったし、さらに興味が湧いた」「実際に行かないと分からないことがあって、そこを体験を通して学ぶことができた」等の理由より、全員が体験への参加を有意義なものとして捉え、今後の進路選択に生かせる、今後も関連する施設の活動やボランティアに参加してみたいと回答し、9人中7人が関連する仕事に就いてみたい、と答えている。 ⑥ 以下の数値は、9月実施の進路希望調査（1年生回答率76.9%、2年生96.1%、3年生76.9%）と12月実施の生徒対象の学校評価アンケート（1年生回答率87.3%、2年生69.4%、3年生68.0%、全校生の75.1%）に基づいている。 9月の進路希望調査では、平日の学習時間が30分未満が1年30.5%、2年38.0%、3年8.6%、30分～1時間未満が1年31.5%、2年29.0%、3年5.7%、1時間～1時間30分未満が1年20.2%、2年13.5%、3年4.9%、1時間30分～2時間未満が1年11.7%、2年10.6%、3年11.9%。特に、1、2年生の学習時間が30分未満と30分～1時間の層が最も厚く、多くが十分な学習時間を確保していないことが懸念される。3年生の学習時間の大多数の層は順に、3時間～4時間未満19.7%、4～5時間未満15.6%、2時間30分～3時間未満12.7%である。5時間以上は11.5%いた。現在、塾や予備校に定期的に通っている生徒は、1年生26.3%、2年生26.5%、3年生57.8%である。 12月実施の学校評価アンケートでは、生徒の41.7%が家庭における学習習慣（予習・復習など）が身につけていると回答した（昨年比3.1%減）。定期考査や課題考査では51.4%が学習計画を立てて取り組んでいると回答（4.6%減）したが、全体の58.3%が、日常的な家庭学習に取り組めておらず、全体の48.6%が定期考査などの直前であっても計画的に学習に取り組めていないことが分かった。61.2%が自分の進路について計画的に情報を集めていると回
--	---	------------------------------------	----------	---

				答し（2.2%減）、進路について関心がある一方で、必ずしも日常的な学習には結びついておらず、将来への進路と結びついていない生徒が多い。日常的な学習の達成感を得られるように促す必要がある。本校の進路ガイダンス、HR、総合的な探究の時間などのキャリアプログラムにおいて、64.1%が自分の進路を考えるうえで役に立つと回答しており（5.1%減）、今後一層充実させることが望ましい。 今年、2年目の取り組みとして12月に2年生対象の大学講師による模擬授業を開催した。2度の講義を通して、感想文では、「大学の授業に触れられて新鮮で楽しかった」「物理おもしろすぎた。」「自分の学びたい学問についての事があまり分かっていないのもっとネットやオープンキャンパス、資料などを通して理解して、やりたいことを見つけない」「経済と経営の違いや、社会学がどのようなものかなどを初めて知ることが多かったのも、色々な学部を沢山調べて知りたい」「顧客の心理を理解して物を売る方法が経営学と社会情報科学部は似ている」「自分が何を武器にして社会に挑むか、もう一度仕事のことや、自分の強みを調べようと思った」「身近（なこと）を大事にして疑問を持つようにしていきたい」「自分の知らない学問分野がまだまだあるので、もっと調べるべきだと思った」「教育学などを知りたい」「もっといろんな分野にも目を向けない」「宇宙の可能性の大きさに惹かれました」「自分が進もうとしている電気工学だけでなく他の職種について調べようと思いました。そして今学ぼうとしている学問でどんな職種につけるか調べようと思いました。」「外国語をもっと学びたい」「自分の興味のあることを見つけてもっと詳しく調べて自分なりの考えを出してみたい」「今まではあまり興味のなかった分野でも、話を聞いてみて、知らなかったことを知ることができたので、とてもよい講義を受けることができました。」「大学で行われているゼミがどんな内容のものがあるのかをもっと自分で調べてみようと思いました」「自分の好きなことを深掘りするのは大切だということを知れた。」「他の作品の背景も知りたいと思った。」「今まで自分が興味を持っていなかった学部の授業を受けてみて、とても楽しかったし、興味を持った。（中略）今まで興味がなかった大学や学部をもっと調べてみようと思った。」「夏休みにふれあい看護に行って学んだことを重ねて授業を受けることができたので良かった」等、大半が講義そのもののテーマに興味を持ち、さらに興味を広げたり深めたりしたいと思っている様子が窺え、自分でも周辺の学問について調べたり、改めて自分の進路について再考したいといった進路に対して積極的に向き合いたいという感想が目立った。 大学講師の講義に先立って開催した進路講演会の感想では、「説明を受けてかなり気づきがあった。目標をしっかりと立てて勉強に励もうと思った。」「もう一度本になりたい（就きたい）仕事や行きたい大学を考え直したい」「自分が今何をしたらいいかわからなかったのも、目星がついた」「やる気を出す方法が分かってよかった」等、前向きな感想が多く目立つ。講義受講によって知的好奇心に刺激を受けたことや、進路への関心が高まったことが、実際の目標や日常の学習時間にどう影響するかは、今後の学習時間や姿勢を注視する必要がある。
--	--	--	--	--

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 伝統文化を尊重しつつ、多文化共生社会の実現に向けて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った国際社会で活躍する人材の育成	①オープン・ハイスクールや学校訪問、学校説明会をはじめとした各種行事に積極的に協力をし、広報活動を行う。【総務部】	①各種行事実施後の参加者アンケートや、文理探究科志願者数などにより評価する。【総務部】	A	① 文理探究科開設にあたり、中学校や地域での広報活動、説明会を実施できた。今後も広報活動を継続し志願者の増加をはかる。
	②学校行事(文化祭や修学旅行等)を通して、異文化に関心をもち、広い視野をもって考えるグローバル人材を育成する。【生徒指導部】	②学校行事(文化祭や修学旅行等)の事後指導における生徒の感想により評価する。【生徒指導部】	B	② 各学校行事後に生徒会執行部員たちに感想・今後の改善点等について聞いた。概ね成功裡に終わったとの感想であった。
	③国際コミュニケーションコースの生徒を対象とする「グローバル・プログラム」（英語集中講座、海外高校生とのオンライン交流、留学生との交流など）を実施する。【探究推進部】	③生徒のアンケート、英語外部検定の結果及び取得状況、講座内での取組を通じて評価する。 【探究推進部】	A	③ 実施したいずれのプログラムについても、80％以上の生徒が肯定的に捉えており、英語学習への動機づけや多文化共生社会への意識づけとして機能していた。自主的な活動に取り組む生徒が増え、中にはスピーチ大会（韓国語）で大賞を獲得したり、留学へ参加したりする生徒も見られた。今後も、異文化理解のための交流を続ける。
	④国際コミュニケーションコースの生徒を中心に、世界規模の課題や世界各国の課題解決に着目した探究活動を推進する。 【探究推進部】	④探究成果発表会の内容、生徒の振り返りなどにより評価する。【探究推進部】	B	④ 探究活動自体は活発に行われたが、世界規模の課題や世界各国の課題解決に着目したテーマを選択した生徒は限られていた。テーマ設定のアプローチを工夫したり、国際的な課題の具体的な探究手法を指導したりするなど、生徒がこれらのテーマに取り組んでみようと思える働きかけを検討したい。
	⑤全生徒を対象とする「インターナショナル・プログラム」として、短期海外研修や、中期留学・奨学金の情報提供を推進する。 【探究推進部】	⑤各種説明会・研修・留学への参加者数、参加者へのアンケートにより評価する。 【探究推進部】	A	⑤ 短期海外研修は最少催行人数に1名足りず不催行となったが、中期留学への参加者は4名にものぼり、「トビタテ！留学JAPAN」の奨学金獲得に挑戦する本校初となる生徒も現れた。これらの活動に関心を持つ生徒の大多数は国際コミュニケーションコース生であり、普通科生徒への普及が継続的な課題である。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 地域社会と連携する中で、課題を発見し、その解決策を主体的に探究しながら、社会に貢献できる人材の育成	①学校ホームページなどを活用して生徒の様々な活動を校内外に積極的に発信することで、生徒自身に活躍する喜びや応援し支えられている意識を持たせ、地域・家庭との連携につなげる。 【総務部】	①ホームページ閲覧数の変化及び学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	① ホームページはかなり充実してきた。さらにより良い情報を発信していくための改善を進める。
	②「総合的な探究の時間」や課外活動などを通して、地域の課題を発見し、解決策を主体的に探究しながら、地域社会に貢献する人づくりを進める。 【探究推進部】	②学校評価アンケートや探究成果発表会の内容、生徒の振り返りなどにより評価する。【探究推進部】	A	② 地域活性化、ゴミ問題、在日外国人が抱える課題など、さまざまなテーマの地域課題に着目した探究活動に取り組む生徒が増加した。特に「きたくろす SCHOOL」やベルスト鈴蘭台活用ワークショップなど、地域で活躍する人々と連携した探究活動に参画し、より具体的な課題解決・貢献に取り組む生徒が一定数見られた。
	③社会人講話を実施し、実社会で期待されている人材（人財）の要件を生徒、職員が共有する。 【進路指導部】	③学校評価アンケートなどにより評価する。 【進路指導部】	D	③ 今年度は実施しなかった。

(5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実	①担当業務を明確化し、組織的に取り組むことで業務の効率化を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	① 業務については組織的に取り組めた。他の部署との連携を強化し、さらに効率化をはかる。
	②生徒に対して、育成する力を明確にして行事運営の見直しを図る。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	② 行事についてはより良い運営ができた。生徒が積極的に活動できるように取り組んでいく。
	③先進取組校への教員派遣を実施し、職員研修会で報告機会を設け全職員への還元を図る。【教務部】	③職員研修実施回数により評価する。(目標:年1回以上)【教務部】	D	③ 今年度は実施しなかった。
	④生徒会・部活動・学年などと連携しながら学校行事や地域活動などに自主的/自律的に取り組む生徒を育成する。【生徒指導部】	④各行事の事後アンケートや学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部】	A	④ 各学校行事後に生徒会・部員・学年生徒たちの感想から概ね成功裡に終わったことが理解できた。
	⑤「進路サポート」(キャリアノート)やキャリアパスポートを積極的に活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。【進路指導部】	⑤学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B	⑤ 学校評価アンケート(生徒用)では、64.1%が、本校のキャリア教育プログラムが自分の進路を考える上で役立ったと回答しており、3年間を見据えたキャリア教育に関する年間計画の下、組織的・継続的にキャリア教育を実施することができた。教員はキャリアパスポートを生徒理解の一助として活用した。生徒は自己分析を深め、働くことの意義や多様な職業、自らの興味や資質に応じた多様な進路の可能性について、振り返りや目標設定をこまめに行い、キャリアノートを蓄積・形成し、系統立てて理解を深めた。今後は、生徒に現在の学びと将来の繋がりをもっと考えさせるキャリア教育を推進することを目指す。